

# 加古川市男女共同参画センター

兵庫県加古川市

## 地元大学との連携によりユニークな市民講座を開催

このセンターは、地元の大学と共同で講座を企画するなど、独自の地域活動を行っていることで知られています。平成15年に兵庫大学附属研究所と共催で「協働」をキーワードとした「男と女・まちの元気づくり講座」(6回連続)を開いたのを皮切りに、今後も大学との連携によるさまざまな活動が予定されているそうです。

仕掛け人の一人でもある兵庫大学・田端和彦助教授は、センターとの連携のきっかけをこう語ります。

「うちの大学は設立の際に地元の市町村に援助協力をいただいたこともあり、“地域になんらかの形で貢献したい”という気持ちが元々強かったんです。で、平成7年以降、市の若手職員が結成した“職員政策研究会”と大学の附属研究所が協力しあって、まちづくりに関する共同研究を行うようになりました。その流れで男女共同参画事業にも参加するようになったんです。さらに平成15年から兵庫大学に女性の大村学長が就任したことも、女性問題に本格的に取り組むうえでの“後押し”となりましたね」

## 市民の注目度が上がり、講座内容の充実が図れて一挙両得

平成15年、センターと大学が共催で企画した講座の内容は、男女協働をテーマにしたものから、女性社長の起業論、NPO支援団体(CS神戸)を主催する女性代表によるコミュニティ論まで多岐に及んでいます。大学側は単独主催の公開講座よりも市民の注目度が高く、多くの聴講客が期待できる一方、男女共同参画センター側も、講師の選定などを大学と共同で行うことで、講座内容の充実が図れて一挙両得。理想的なコラボレーションが実

現しました。

「生涯学習が注目されている今、男女ともに、もっともっと身近でさまざまなことを学べる機会があってもいいと思います。そういう意味でも大学との連携は有効です。また、講座の企画とは別に、センターでは“男女共同参画社会づくり研究会”という市民参加の組織を結成して勉強会や情報誌の発行も行っています。研究会のメンバーのなかには、独自にボランティア活動に参加したり、起業したりと新しい動きも生まれつつあるようです」(男女共同参画推進担当副課長・北谷さん)

規模は決して大きくないセンターですが、スタッフの皆さんはたいへん積極的。「男女共同参画について広く知ってもらいには、外に飛びだすのが一番」と、今年度からは出前講座も実施しているそうです。1プラス1=2ではなく、他組織とのネットワークが形成されたことにより、それ以上の効果を生み出すに至った好例といえるでしょう。



兵庫大学経済情報学部助教授の田端和彦さん。商工会議所や県とのつながりも深く、県と連携し、環境や経済問題を研究する「ため池講座」なる市民学習会も開催している



男女共同参画センターは、市役所の隣の青少年女性センターの2階にある



資料や書籍が自由に閲覧できる情報コーナー。明るく開放的な空間なので、気軽に立ち寄ることができる



加古川市男女共同参画推進担当副課長の北谷奈津子さん。前職場の加古川ウェルネスパーク(音楽ホール、図書館、スポーツ施設の複合施設)の時代から、田端さんとはお知り合い。人的ネットワークが連携のきっかけにもなったとか

### ●施設概要

加古川市立青少年女性センターの2階フロアに事務室と相談室、情報コーナーなどを開設。

### ●事業例

市民講座や出前講座のほか、市民スタッフ養成講座、働く女性のためのキャリアアップセミナー、情報誌の発行、夫婦問題などの女性相談もを行っている。

### ●住所&交通アクセス

兵庫県加古川市加古川町北在家2718 青少年女性センター2階  
JR神戸線加古川駅より徒歩15分

### ●問い合わせ

電話 0794-27-9767

<http://www.city.kakogawa.hyogo.jp/hp/jinken/danijo/>

## 地域の男女が楽しみながら働ける職場が理想

フレッシュ・ピクル代表  
坂田順子 さん 兵庫県加古川市

### フレッシュ・ピクルを設立するまで

平成12年4月  
社会づくり研究会のメンバーとして加古川市男女共同参画センターの情報誌「みらい」の企画編集に参加。

平成15年5月  
センター主催の女起業家の講座に感化され、「女性も努力次第でなんでもできる」と思い始める。

平成15年8月  
地域の男女が協力しあいながら働ける仕事として、野菜の加工業のアイデアを思いつく。

平成15年9月  
近所の主婦たちを誘って「フレッシュ・ピクル」を設立。

### 低農薬野菜の漬け物の加工販売をスタート

“加古川市男女共同参画社会づくり研究会”のメンバーでもある坂田さんは、近所の主婦仲間と野菜の加工販売を行うグループ「フレッシュ・ピクル」(非法人)を平成15年に立ち上げました。畑の多い地域性を活かし、仲間で野菜を作り、それを加工して販売する仕事です。

「近所に定年を迎えて時間に余裕のある男性が増えてきたのを見て、男の人と一緒に何かを始められないか?」と思ったのがきっかけです。でも女性から“ブラブラしてないで何かやったら?”とイヤミをいうより、主婦たちが始めた仕事を手伝ってもらう方が、うまくいくんじゃないかと(笑)。まずは自分たちが動くことにしたんです」

現在はまだ男性陣は農作業やラベル作りを手伝う程度で、男女共同参画とまでは至っていないようですが、将来的には夫婦一緒に楽しみながら働ける環境づくりを目指しています。

### センターの女性起業家の講座に触発されて

坂田さんが新しい仕事にチャレンジしようと思ったのには、男女共同参画センターの講座の影響が大きかったようです。「チャイルドハートというWEBカメラを設置した保育園を設立した木田さんの講座に参加し、主婦という立場でも一生懸命やれば、な

んだってできるんだと思うようになりました」低農薬の素材のみを使用し、化学調味料は一切使わずに加工された漬物類はおいしいと好評で、売り上げも順調に伸びていると聞きましたが、始めた当初は苦労することも多かったとか。特に低農薬にこだわったために、害虫にはさんざん頭を悩まされたそうです。「実は私、農家に嫁いだのにずっと畑仕事は大嫌いだっただけです。でも、この仕事を始めるようになって、苦労というよりも逆に農作業が楽しみになってきました。おいしいってお客様に直接言われたり、電話で注文を受けたりすると嬉しいですからね。舅は今ごろ農作業に励む私を見て、天国で笑ってるかもしれません」

### 積極的に動いてみることから楽しみが生まれます

仕事を一緒に行っているメンバーは近所の気心の知れた主婦5人。毎朝出荷作業を行い、JA兵庫南のショップに卸しています。「作業している時間より、わいわいおしゃべりしている時間の方が長いくらい。最初はみんなのお茶代くらい稼げればいいわねって思っていたんだけど、最近は欲が出てきました。やっぱりお金は励みにもなりますからね。この仕事を始めてみてわかったのは、何もしないと楽しみは生まれてこないということ。とにかく積極的に動いてみるのが肝心なんじゃないかしら……」



商品は地域のJAのふぁ〜みんショップで販売中。安くておいしいと好評だとか



出荷作業は毎朝行いが、餅をついたり漬物を作ったりの仕込み作業は週に3回。味付けには皆さんそれぞれがこだわりを持っていて、意見の相違でケンカになることも



フレッシュ・ピクルのメンバーの皆さん。作業の後は好例の井戸端会議が始まる